

## 認知症 460 万人時代、もの忘れセンターが目指すもの



国立長寿医療研究センターでは、新世代もの忘れセンター（外来・入院部門）を平成 22 年に開設し、今年 4 年目を迎えています。多くの患者様が近隣市町村、愛知県、また東海全圏から受診されています。「診断から終末期までの切れ目ない認知症診療」を目標に掲げ、全国でも最高レベルの認知症医療を提供してきたと自負しております。

軽度認知障害を含めると、全国に約 800 万人の認知障害をもつ患者さんがおられ、今後さらに増加すると推計されます。近年、認知症に対する社会の関心は高く、G8 サミットなど世界中でその対策が急がれています。国立長寿医療研究センターでは、「認知症のお年寄りの生活を診る診療」を基本理念とし、先端医療、ご家族への支援など、認知症の医療・ケアのあるべき姿を追求しています。さらに最新の脳科学の進歩を取り込んだ認知症予防、早期対応を実現してまいります。

引き続き、皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成 26 年 4 月吉日

国立長寿医療研究センター・もの忘れセンター長  
櫻井 孝

# もの忘れセンターの理念

一日でも長く在宅で穏やかに暮らすため  
認知症に対する患者・家族の希望を叶える

**目標：認知症疾患センターのモデルとなります**

**活動内容：**

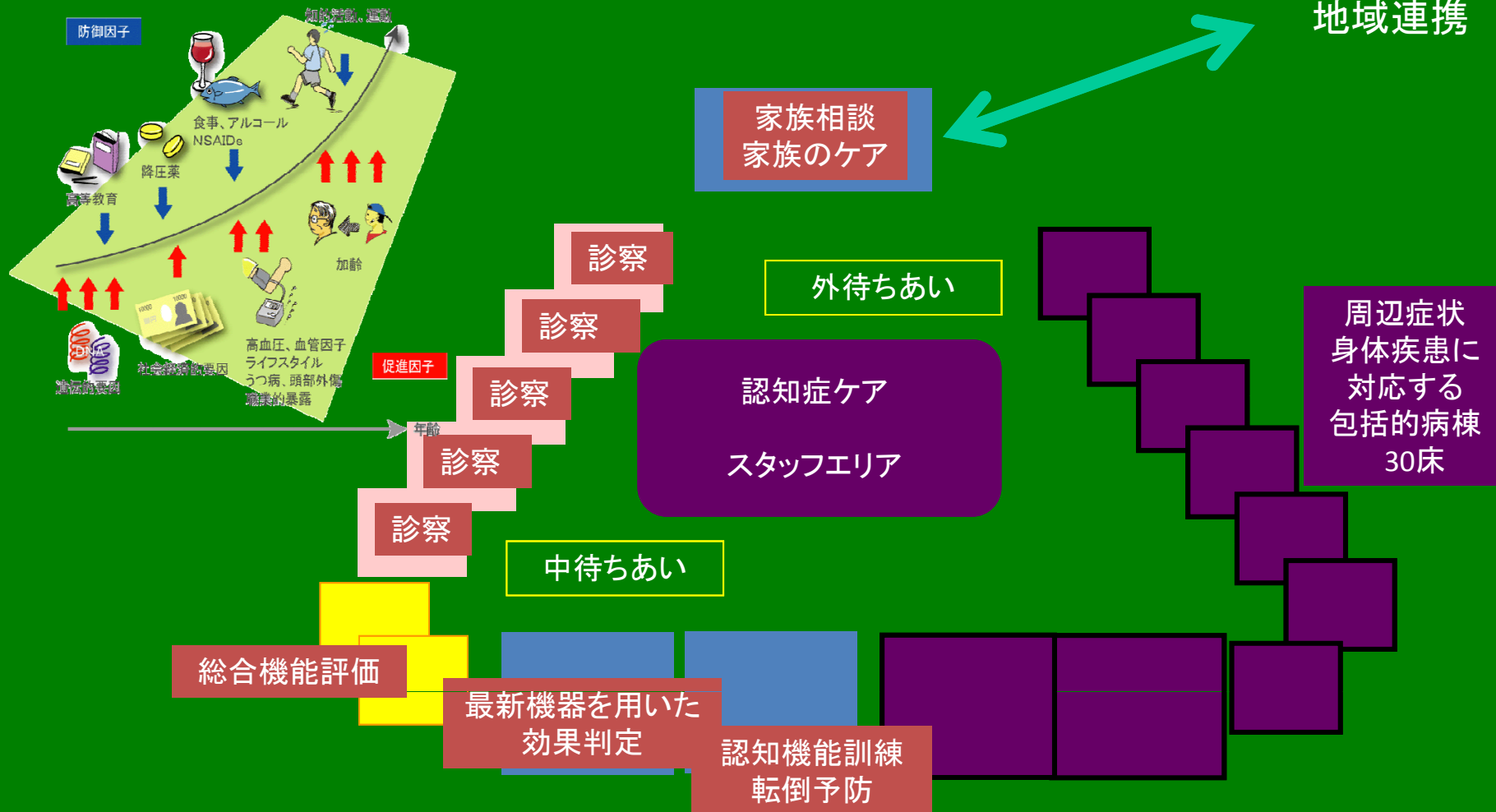
- 1) 認知機能の維持
- 2) 周辺症状の速やかな改善
- 3) 生活機能の改善
- 4) 老年症候群（転倒、誤嚥、失禁）などをおこさない
- 5) 介護負担感の軽減
- 6) 身近な場所での認知症に対する介護サービス利用の情報提供
- 7) 緊急時の入院対応

# もの忘れセンター

The Center for Comprehensive Care and Research on Memory Disorders.  
(Comprehensive Careとは懐に包み込むように、相手の立場に立って医療、ケアを行うことです)

## 集団家族指導

## 地域連携



## もの忘れセンターでは、新しいチーム治療を行います！

診断に長けた神経内科医、放射線科医、  
周辺症状の薬物療法に長ずる精神科医、  
手術の適応に長けた脳神経外科医、  
これらにバランスよく通曉しかつ身体疾患にも  
対応できる老年科医がコーディネーターとなり、  
専門家と地域一般医家の情報を交換して  
患者サービスに切れ目をなくします。

治療チームには、コメディカルだけでなく、  
患者・家族も加わります。  
これによって難しい医学用語ではなく  
「日常生活上どのような言葉で苦勞として  
語られているか」を理解して、ケアをすすめます。

# もの忘れセンターの診療について

**外来診療日：月～金の午前午後**

**全予約制：電話または外来窓口で予約をおとり下さい。**

**国立長寿医療研究センター（0562-46-2547）の予約センター  
までお願いします。 ＊平日13：00～16：00**

**担当医：院長（老年科）、副院長（神経内科）**

**もの忘れセンター外来部長（老年科）**

**老年科部長、神経内科部長、放射線科部長**

**精神科医長、老年科医長、神経内科医長、脳神経外科医長**

**老年科医師（2名）、神経内科医師（2名）、整形外科医師**

**スタッフ：看護師、臨床心理士3名、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー**

**特殊検査機器：**

**MRI（1.5T 1台）、MRI（3T 1台）、SPECT、FDG PET、**

**Amyloid imaging、NIRS（光トポグラフィー）、磁気刺激装置**

**重心動揺計、体組成計**

**家族相談室 2部屋、 集団家族教室 2回（月）**

**（要予約；センター受付）**

**入院（平成23年度～） 周辺症状／身体合併症対応病棟 30床**